

山崎誠事務所「あおばフレンズ」近況報告

小箱かのんより

現在、出展登録者数38名、個性豊かな手作りの一品がそろいました。シルバー、ドライフラワー、パッチワークキルト、ビーズ教室も開催されてにぎやかです。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

(下のはんこも小箱の手作りです)



小箱かのんよりイベントのお知らせ

うたとつみ木の森コンサートを企画中です。

「しゅうさえこ うたの森コンサート」

うたの森で友だちをつくろうコンサート

《同時開催》

「森のつみ木広場」

1万個のつみ木、森からのプレゼントで何を作ろう!?

日時: 7月12日(土) 13:00~(予定)

会場: アートフォーラムあざみ野

しゅうさえこさんのコンサートとつみ木広場のコラボレーション。親子、友だちと一緒に楽しむ、参加型のイベントを創ります。

横浜市議員 山崎 誠

ヨコハマ市政レポート 青葉生活30+《プラス》

批判から 提案の 政治へ。

温暖化が進む地球...顕在化する気候変動が私たちの生活にも影響を与え始めています。今すぐ、確かなビジョンと意志を持って、対策をたて実行しなければなりません。私たちの価値観、ライフスタイルが問われています。子どもたちの未来のために横浜から行動を起こしましょう。

写真は横浜国立大学キャンパス内に計画的に植樹された森。正しい方法を持ってすれば小さな土地でも確かな緑が育ちます。



山崎誠事務所 「あおばフレンズ」

山崎誠政策研究所 / 小箱かのん

OPEN 11:00-17:00

水曜・日曜・祝日定休

【住所】

〒227-0062

青葉区青葉台1-24-1 電興ビル2F

青葉台駅より北へ徒歩7分右側

環状4号沿いファミリーマート2F

1Fファミリーマート横の階段をお上がりください。ガラス張りの明るいオフィスです。

【TEL】045-577-0500

【FAX】045-577-0525

【E-mail】

yamazaki-makoto@s01.itscom.net

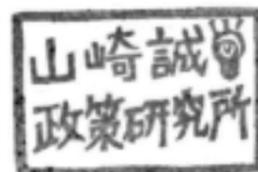
【ホームページ】

http://makoto5050.net

山崎誠のプロフィール

1962年東京都練馬区生まれ。都立西高校、上智大学法学部法律学科卒業、青山学院大学国際政治経済学研究科国際ビジネス専攻修士課程修了。(株)熊谷組、日揮(株)勤務。アルジェリア、オランダ等での海外勤務を含め国内外の企業の業務改革プロジェクト、事業計画立案にコンサルタントとして参加。青葉区桂台で、妻、一男一女と暮らす。趣味は自転車、音楽鑑賞(クラシック、ジャズ、ポップス等)、トロンボーン演奏、絵画、写真など。

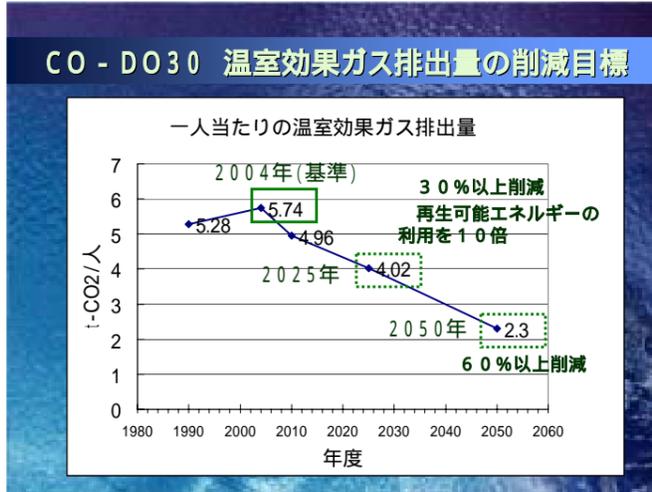
2006年3月の横浜市議員補欠選挙に初当選、2007年4月の統一地方選挙にて2期目の当選を果たし、市民に開かれた政治をモットーに活動中。2008年4月より横浜国立大学院環境情報学府研究生。



今、求められている脱温暖化行動。目標はどのように設定されているか。

横浜市が定めた脱温暖化行動方針CO-DO30が示す目標値は、温暖化効果ガスの排出量を2025年までに2004年比で30%以上削減、再生可能エネルギーの利用を10倍に。さらに2050年までに60%以上削減となっています。

この目標設定をどう見るか。第1に、これだけの削減を実現するためには、ライフスタイル、社会構造まで変える根本的な対策が必要であること、第2に目標年度が2025年、2050年と先のために、誰が結果に責任を持つかが問題になります。未来を指向して、現在の生活を律することができるか、行動を起こすことができるか、が市民一人ひとりに問われています。



横浜市が進めている150万本植樹行動。確かな緑を根づかせることができるか。

緑の指標である、横浜市の緑被率を見ると、1975年は約45%あった緑が、2004年には31%に、30年間で日産スタジアムの約850倍の緑が失われています。この減少に歯止めをかけ、かけがえのない緑を保全することを目指して「横浜みどりアップ計画」が推進されています。そのなかで市民参加で展開されている150万本植樹行動は、横浜開港150周年にあわせて150万本を植樹する計画ですが、問題は植えたあと、確かな緑として根づかせることができるか。タウンニュース紙でも取り上げてもらいましたが、150万本に見合った維持管理の予算は取られていない実態があります。一過性のイベントでは緑は増えません。

開港150周年記念植樹 『150万本』は未来に残る？

「維持・管理」の予算不透明 ―― 今後求められる「育てる意識」

項目	内容	金額
1 道路局所管の樹木の維持管理料について	高さ3m以上の樹木の本数	132,282本
	上記維持管理料(予定)年度予算	226,987,000円
	1本当たりの維持管理料	1,715円
2 環境創造局所管の樹木の維持管理料について	指定を行った樹木の本数	1,589本
	上記維持管理料(予定)年度予算	15,026,756円
	1本当たりの維持管理料	9,456円

開港150周年の平成21年までに、横浜市・事業者・市民が協力して150万本の植樹をする「150万本植樹行動」。緑豊かな環境を次世代へという願いのもと、今年度予算に3億円、20年度に3億1400万円が計上される記念事業だが、内訳は緑化費用と広報費で、植樹後の剪定・根上げが対等「維持・管理費」に回って明確な予算化がされていない。「150万本」の未来は...

市では今年度までに、公園や道路などの公共施設緑化に約25万本、住宅地などの民有地緑化に約47万本、市民への苗木配布で約6万本を配布見込んでおり、来年度21年度で残りの約80万本の緑化・配布を予定している。「150万本」を定めた。...

目指し、植樹本数は各局にきめ細かく割り振りが決まっているが、「150万本」を維持・管理するとなると予算化で困難を伴う。事業推進本部を置く環境創造局では「150万本植樹による全体の維持・管理費は予想できない。市が管理する植樹分については、予算化は次年度以降に各局で対応してもらおう」と予算化の難しさを話す。また、今年度で植樹を行う主な局のうち、環境創造局で50,000本、道路局で45,000本、水道局で31,832本が予定されているが、いずれの局も将来的にどれほどの維持管理費がかかるか把握は難しい。...

い状況だ。事業には、金沢区の旧小柴貯油施設に予定されている「開港150周年の森」など、未来を見据えた「150万本」も計画されているが、一般に局が維持管理する「150万本」は、それぞれの限られた通常予算内でのやりくりになる。「大きな木はそんなに植えていないので、多額の維持費用はかからない」と担当者は話す。表の実績でも明らかのように財政状況が厳しい市にあって、将来的に「150万本」が負担になる可能性もある。ある市議は話す。「一過性のイベント意識では緑を次世代に伝えることはできない。50年後、100年後を見据えた緑化の仕組みづくりこそが開港150周年記念にふさわしい事業だと思ふ」。記念事業を無駄にしないために、市も、事業者も、市民も、「150万本を育てる意識」が求められそうだ。

タウンニュース 2008年3月20日号 (鶴見区版)

提案。魔法の森、ヒントは鎮守の森にあった。

横浜国立大学のキャンパスはうっそうとした緑に包まれています。幅10m、長さ100mの広場を取り囲む森。森というには狭いかもかもしれません。でもその豊かさは本物です。春の日を浴びて輝く若葉、春風をいただきざわつく森の音、中に踏み入ると羽根布団のような柔らかな落ち葉が山となっています・・・

「横浜国立大学の緑」には、人間が緑と共生する環境保全林を作るため「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」の思想に基づき、南関東に固有な常緑広葉樹が計画的に植樹されています。照葉樹とも呼ばれるシラカシ、アラカシ、アカガシ、タブノキ、クスノキ、スタジイなどです。落ち葉と枯れ枝を森に戻し土を育む、景観と環境の両立が図られています。

ここでは地域固有の樹林（潜在自然植生）を鎮守の森から探し出し、潜在自然植生の苗木の密植・混植によって樹木の競争・我慢・共存を促す、植物生態学の原理を採用した、横浜国大名誉教授宮脇昭博士の思想による森づくりが行われています。

植樹したての一時期をのぞき、人手を加える必要もないというまさに魔法の森です。確かな緑を育てるために、こういった森づくりの技術・思想を横浜市を進める150万本植樹行動にも取り入れるべきと考えます。



横浜国大は確かな緑に包まれています。緑の効用は地球温暖化を防止するだけではありません。人間の心に潤いとゆとりを取り戻すために、子どもの遊び場として、また街の防災の意味からも大変重要な意味を持っています。緑をもっと生かした街づくりを提案します。身近なところに答えがあります。